

「人類、月に立つ 10」

要旨

アポロ計画後半、人類は月に到達できるか、という興味は月着陸の成功により失われ、人々の関心も次第に薄れ、アポロの月探査は当初の冒険旅行から科学探査に重点を移しつつあった。しかし宇宙飛行士たちは優秀なパイロットではあっても、系統的な科学的訓練は受けていなかった。そこでカリフォルニア工科大で地質学の学位を得た宇宙飛行士のひとり・シュミットが、母校の恩師シルバー教授をスカウトして、宇宙飛行士たちの地質学訓練を指導させる。シルバー教授（及びエジプト人科学者エル・バズ）の情熱は宇宙飛行士たちを動かし、最初は不承不承だったアポロ 15 号船長スコットをも地質学の虜にさせる。そしてアポロ 15 号で初めて試みられた月面車のミッションで、ついに月の起源を解き明かす岩石「斜長岩」の発見がなしとげられるのだった。

視聴ポイント

「その石の持つ状況(context)が重要だ」

最初の導入部：アポロ 15 号の月面調査中の交信－斜長岩発見シーンの先取り

猫の死体：状況がすべて。お気に入りのシェフの厨房にあったら、猫を殺した犯人は…シェフ

道端の死体と食用肉の違い、ここでは状況がすべてだ →オロコピア山地

「地層は絵画と同じ魅力がある。…誰が勝利し、誰が敗れたのか、静寂が訪れ、再び大きな変動が襲う。すべてはこの石につながる。君たちにはまだわからない言葉で記されているのだ。」・・・

「斜長岩」←「サン・ガブリエル山を思い出せ（斜長岩の産地、訓練で行ったが番組ではカット）」

体積の 90%以上を斜長石という鉱物が占める岩石。月の地殻が斜長岩ではないかという推定はなされていたが、確実な証拠はアポロ 15 号が行くまで得られていなかった。

「花こう岩」地球特有の岩石。石英・斜長石・カリ長石・雲母からなる。

「玄武岩」地球、火星、金星と月で、もっとも普通に見られる火山岩。

「角れき岩」既存の各種の岩石が砕かれ、摩擦することなく集積・固結した岩石。衝突クレーターや、火山の噴火、氷河、断層形成などでつくられる。

「かんらん岩」惑星のマントルを構成する岩石。一般に体積の 90%程度をかんらん石が占める。

番組冒頭で、シルバー教授がルーペで見ている岩石は、玄武岩のマグマが噴出時に地下から地上に運んできたこのかんらん岩ノジュール（捕獲岩）。地質学を 8 年間も学んで学位を得た人間が、かんらん岩と花崗岩を間違えるわけがなく、この部分は演出のミスであろう。

(書籍)

人類、月に立つ〈上〉(下)：アンドルー チェイキン（著）、亀井 よし子（翻訳）日本放送出版協会 (DVD)

FROM THE EARTH TO THE MOON DVD 【MOON BOX】 ポニーキャニオン（販売元）←絶版、図書館にあるか？